

事業名	生涯を通じた健康づくりへの支援
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	1
当初予算額(千円)	2,817			決算額(千円)	1,827		
事業の概要・目的	①生涯を通じた健康づくりの促進のため、生活習慣病の予備群・有病者を減少させるための人材育成 ②企業等との連携により学童期の子どもと子どもを取り巻く大人に対して、正しい生活習慣の実践と定着化を図る。 ③健康相談、健康教室を実施するほか、年齢や性別等一人ひとりの違いに応じた保健・医療が受けられるよう、保健医療従事者等研修会を実施し、生涯を通じた健康づくりを推進する。 ④県民一人ひとりが自発的に健康づくりに取り組むよう働きかけるとともに、社会全体が取り組みを支援していく機運を醸成するための普及啓発						
数値目標など							
指標名等	特定健康診査の受診率(市町村国保)						
目標	70%(34年度)	実績	36.5%(25年度)				

2 事業の実施結果

・生活習慣病予防を目的とする特定健診・特定保健指導の効果的な実施を支援するため、当該事業に従事する医療保険者等の保健師、管理栄養士等の専門職や事務職等を対象に研修会を10回(参加者 529人)実施した。

・野菜摂取や朝食欠食改善等望ましい食生活の実践を促すため、飲食店や大学生、健診受診者にリーフレット配付等により啓発を行った(28,000部)。

・身体的、精神的な悩みを有する思春期以降の全年齢層に対する電話相談を男性158人、女性286人に対し実施、性別やライフステージに応じた健康教室(13回、参加者1,388人)を実施したほか、保健医療従事者等研修会を5回(参加者183人)を開催し、生涯を通じた健康づくりを推進した。

・健康づくりに関する県民の意識を高め、自発的な健康づくりを促すため「健康ちば推進県民大会」(参加者224人)を開催した。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)	○	性差に配慮した内容にしている。
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	参加者や相談者等が利用しやすい開催日などに設定している。	
実施結果・効果	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	一部
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2) 改善点等

<改善した点>

研修は、対象者の性差、ライフステージに応じた内容で実施した。
健康相談は思春期以降の全年齢層における男女の相談に応じられるよう相談を受ける職員を研修により強化した。

<課題・今後改善すべき点>

平成26年度に比べ電話相談件数が53件減っている。健康福祉センターにおいて健康相談を受けていることの周知が必要である。

4 委員意見

生涯を通じた健康づくりの支援のために多くの事業を実施しているが特定健康診査の受診率は目標の70%には到達が困難。男女別、年齢別等のより詳細なデータを把握し受診率の向上に向けて努力と工夫を期待したい。

また、電話健康相談については相談内容項目で「その他」が突出して多い。分類の方法を再検討することで詳細が把握できるのではと提案したい。医師会や学校等の他機関との更なる連携を図って、相談窓口の周知を広げていただきたい。

事業名	総合的な自殺対策の推進
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	3
当初予算額(千円)	102,518			決算額(千円)	43,261		
事業の概要・目的	平成26年には、県内において1,208名の方が自殺により命を絶っていることを踏まえ、平成27年度は、市町村及び民間団体の協力を得て、相談事業や、人材養成事業などの自殺防止に関する各種事業に取り組んだ。 また自殺対策についての啓発を図るため、交通機関に自殺予防ポスターの掲示をしたほか、市町村等へマニュアルやパンフレットの配布を行ったほか、街頭で啓発品を配布した。 自殺対策のための相談や啓発事業を実施する市町村や団体に対して、県から補助金を交付した。						
数値目標など							
指標名等	自殺死亡率 (人口動態統計に基づく人口10万人当りの自殺者数)						
目標	減少を目指します	実績	女性11.4 男性27.2 (平成27年確定値)				

2 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい相談窓口の開設 夜間や休日などに対面相談を受けることができる窓口を開設した。 ・自殺対策普及啓発事業委託 自殺防止の対応についての啓発を図るため、啓発物資の街頭配付、メールによる若者向け啓発広告事業等を展開した。 ・相談支援に当たる人材の育成 県、市町村や関係機関の相談対応者に研修を実施した。 ・地域自殺対策強化事業費補助金 市町村及び民間団体が行う啓発、相談事業に対する補助金を交付した。
--

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)	○	計画の策定等に当たり、自殺者は男性が多いことを配付資料等により説明した
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	相談窓口について、就業者が利用しやすいよう夜間及び休日に開設している。	
実施結果・効果	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	窓口利用者についての性別データ有
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

<p><改善した点></p> <p>①若年層への自殺防止事業として、メール広告による啓発を行った。</p> <p>②医療や福祉等の専門職員を対象とした研修のほか、県庁の一般行政職員を対象としたゲートキーパー養成研修を開催した。</p> <p><課題・今後改善すべき点></p> <p>内閣府の発表によれば、平成27年の県内自殺者は1,179名(男性823名、女性356名)であり、前年と比較して人数で29名の減少となったが、依然として1,100名を超える方が、自らがかけがいのない命を絶っている。今後も、効果的な自殺対策を講じ、男女に関係なく自殺者を減少させてまいりたい。</p>
--

4 委員意見

<p>相談事業等から自殺リスク要因を把握し、性別や年齢別データ等の把握等からそれぞれの事情に添った呼びかけや対策を検討して欲しい。</p> <p>また地域格差がないように相談窓口を広げ、NPO等、民間団体との連携を図って頂きたい。</p>

事業名	総合的ながん対策の推進
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	168,548			決算額(千円)	156,958		
事業の概要・目的	がん対策に係る普及啓発を中心に県民、医療・福祉関係者、民間企業、行政が協力しながら、総合的・計画的にがん対策を推進します。						
数値目標など							
指標名等	がん検診の受診率						
目標	増加を目指します。	実績	胃がん 計40.9% 女性34.2% 男性47.7% 肺がん 計45.2% 女性41.4% 男性49.2% 大腸がん 計40.0% 女性36.7% 男性43.6% 子宮がん 女性43.7% 乳がん 女性48.6% (H25年 ※3年ごとの調査)				

2 事業の実施結果

がん対策に係る普及啓発を中心に県民、医療・福祉関係者、民間企業、行政が協力しながら、総合的・計画的にがん対策を推進した。

- ・がん予防展2回(延5,796人来場) ・がん講演会2回(175人参加)
- ・がん検診推進員育成講習会6回(303名受講) ・市町村担当者会議1回(83名受講)
- ・乳がん啓発ピンクリボンキャンペーン2回等

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)	○	女性に多い乳がんの検診受診促進のためピンクリボンキャンペーンを実施。
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	予防展、講演会やキャンペーンを休日の日中に開催。	
実施結果・効果	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	参加者アンケートにより男女別データを収集している。
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

<改善した点>
 がん予防展では、男女問わずがんに関する知識を身近に体験できるよう、予防に関する各種測定のコナーに加え、食事コーナーなどを設置し、がん予防のための生活習慣の見直しの重要性を伝えることができた。またがん講演会では、がん体験者による治療と就労の両立に焦点を当てた体験談を取り入れることで、男女問わず、がんになっても安心して働き暮らせる社会づくりの大切さを感じていただくことができた。市町村担当者研修会では、自治体のがん検診事業の先進的な取組事例の紹介等を通して、受診率向上に向けた具体的な取組について理解を深めることができた。

<課題・今後改善すべき点>
 市町村担当者研修会は、がん検診に関する最新の知識について理解を深める場となっていることから、昨年度のがん検診に係る国の制度改正等に関して、そのポイントをわかりやすく伝えていく。

4 委員意見

「がん検診推進員」については、男女比のバランスに配慮して欲しい。
 女性は男性に比べてがん検診の受診率が低いと、関心度を高めることで受診率を上げる必要がある。
 なお、がん患者の就労支援事業は、ワーク・ライフ・バランスの面からも評価できる取組であり、ぜひ継続して欲しい。